

第5回 十勝川中流部川づくり報告会【議事録概要】

【開催要旨】

開催日時：平成26年8月30日（土） 18:00～20:00

開催場所：とち館 丹頂の間

出席者数：48名

【議事要旨】

議事内容	確認事項	課題・その他
開会挨拶	十勝川中流部市民協働会議の事務局長より、開催にあたっての挨拶	
十勝川中流部市民協働会議について	事務局長より、十勝川中流部川づくりワークショップから十勝川中流部市民協働会議への移行の経緯について、また、当会議が目指す活動主旨・活動方針について説明	
十勝川中流部の工事について (川づくり案の進捗状況)	河川管理者より、平成25-26年度の十勝川中流部川づくりに関連した、以下の内容について説明 1) 川づくり(案)の進捗状況 2) 今年度以降の動き	
十勝川中流部市民協働会議における今年度の活動と現況	当会議における今年度(4-8月)の活動報告と現状について報告。また、土木学会北海道支部より「地域活動賞」の受賞報告。 主な活動内容は、 1) 十勝大橋上流左岸において農高生徒との協働 2) 工事の完成確認と進捗状況の確認(現地立会) 3) 湿地形成箇所において農高生徒との調査及び新たな生物生息環境の設置作業 4) 帯工生徒(2-3年生)との現地視察・確認	
帯広農業高等学校からの報告	帯広農業高等学校の生徒(代表生徒3名)による発表 発表テーマ:『十勝川中流部における草地復元・湿地造成』について	
今後の川づくりについて ①十勝大橋上流左岸 ②途別川合流点上下流 ③各高校との活動	当会議事務局から以下の点について説明 1) 十勝大橋上流左岸: ~河畔林保全と草地復元 2) 途別川合流点上下流: ~湿地環境保全と草地復元 3) 各高校との活動: ~当会議との協働連携	
質疑応答・意見等	高校生との関わりについて、また、今まで築いて来た自然環境(草地・湿地)そして調査について、今後、新たな施策を考え、より良い川づくりの可能性について意見等を頂く。	
講評	本日の報告会において、当会議事務局員及び帯広農業高等学校に生徒による発表について、当会議顧問の加賀谷室蘭工業大学副学長より講評を頂く	
閉会挨拶	河川管理者から今までの地域連携、そして今後の川づくり・地域協働活動に対して、行政としての協力関係の維持を表明して頂き閉会	

【発表概要】

○帯広農業高等学校生徒 3 名

発表者	発表テーマ	発言者	要旨
<p>帯広農業 高等学校 生徒 3 名</p>	<p>十勝川中流部 における草地 復元・湿地造 成についての 中間報告</p>	<p>—</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 湿地箇所において H25 年度の調査では、フクドジョウやウグイの稚魚が確認されたが、人工的に掘削した単調な湿地環境では生物が棲みやすい環境とは言えないため生物種ごとの生態系を考慮したデザインを計画し、底生動物稚魚・中型魚・大型魚・陸生生物に分類、異なる水深に分けた湿地環境を考えました。 2) 水質浄化と生物育成の実験・調査として、水質浄化を兼ね備えた魚礁型人口湿地の創出を目指し、ゼオライトによる魚礁の設置をしました。設置後の水質調査では、施設周辺と湿地環境の中央部では大きな変化は見られず、湿地全体を浄化できる施設ではないこと、また、効果を確認するためには長期間の定点観測データが必要であることが分かりました。 3) 生物調査では、施設の周りに網を仕掛け 2 回の調査により生物の増加を確認することが出来ました。 4) 平成 26 年度における活動は、湿地掘削・陸地の造成について、十勝多自然ネット様の協力のもと、掘削・陸地の造成を行い、水深は 2m 以上の水深と陸地が出来ました。 5) 今年度の生物調査は、1 か月毎実施し、昨年と異なる魚類も確認できました。また、昨年度の調査で主な魚種であったフクドジョウやウグイ類については、全長・体長平均で比較すると大きくなっており、この湿地を棲家として生物が成長していることを確認できました。また、モノアラガイの卵とみられる物も確認しています。 6) 多孔質のゼオライトは、凍結の影響により砕けてしまい魚礁となる隙間がなくなってしまうことが分かりました。しかし、魚が少ない分、水生昆虫やモノアラガイの卵を産めつける環境であることなど、結果として玉石との隙間の違いが生物種ごとの棲み分けに繋がっているものと思います。 7) 草地復元と湿地づくりは、ヨシ棹の製作・設置とヨシ茎根の移植を行いました。また湿地箇所の大型魚エリアへの伐採木の投入、稚魚・底生生物エリアへ玉石の魚礁を新たに設置することが出来ました。 8) 今後の計画は、魚礁の増設としてゼオライトと玉石の投入設置を考えています。また 11 月まで生物調査を継続し、生態系の変遷を記録していきたいと考えています。以上で中間報告を終わります。

○質疑応答

発言者	質問内容	説明者	要旨
当会議 事務局員	湿地環境について今後の活動提案		<p>この湿地箇所において、もう少しレベルアップした調査を宿題として学校側から頂いていますが、今現在の施策として以下の様なことを考えています。</p> <p>■現在の湿地面積4haについて、格子割りによる環境毎（生息環境毎）の魚類全数調査を考えています。調査は時期ごとや施設の追加投入した前後などを経年的に行い、湿地環境の変化に伴う効果や変化について調査することで高度な調査が期待できると考えています。</p> <p>準備等は当会議事務局で用意しますので、生徒さんの協働をお願いします。</p>

○参加者からの意見・感想等

発言者	意見・感想	説明者	要旨
帯工教諭	今後の草地復元について	—	<p>現在、学校としての課外授業のカリキュラムが混んでいる状況で、9月に改めて本格的に途別川合流点の草地復元について検討していきたいと思っていますので、皆様のご協力をお願いします。</p>
生物専門家	湿地箇所において外来種侵入の危惧について	—	<p>湿地環境の造成について、皆様の報告や実際現地に行った感じから順調に形になってきているものと感じています。</p> <p>その中でも危惧する箇所として、ウチダザリガニの侵入を考えてしまいます。</p> <p>十勝川中流部の相生中島地区はウチダザリガニの生息地であり、この湿地に侵入すると石と石の隙間等（フトン籠等）を好み生息し雑食を主食としますので、生態系を壊す要因にもなりますので、このような外来種が侵入した時の対応策も今後考えていく必要があるものと考えています。</p>
当会議事務局員	高校生の水質浄化試験について	—	<p>先ほどの発表で、湿地面積に対する浄化施設の規模が小さすぎて然程効果がなかった結果となりましたが、水質帳査は今後も継続して調査することを希望します。</p> <p>例えば、この湿地箇所は上流からの湧水もありますので、旧帯広川は流末（下流部）となり水質の変化を比較し易くなると思いますので観測箇所を変えるなど、継続及び定点観測を行えば水質の変化を見ることが出来るものと考えています。</p>
当会議事務局員	湿地環境の形成目標について		<p>湿地箇所の形成について、多種の生物・魚類が生息することは望ましいが、最終的にどのような生物の生息が理想なのかを考えた環境づくりも面白いものと考えています。</p>

○講評

発言者	発表テーマ	発言者	要旨
顧問	講評	—	<p>1) 川づくり（案）について（工事の進捗） 一言で言うと順調に進んでいると感じています。ワークショップで合意形成された基本方針に沿って工事を進めつつ、また PDCA サイクルの実施も関係者を含め適宜に行うなど機能していると感じています。それと官民学の3つの輪がしっかりと連携し良い関係を維持しているものと感じています。</p> <p>2) 協働会議の活動について 協働会議としての活動について、非常に大変だと聞かせて頂きました。力仕事も多く、外来種の駆除なども行わないと良い河川環境を維持できないものと感じさせて頂きました。</p> <p>3) 高校生の発表について 毎回、立派な発表と感心させられます。今回は人口湿地の製作設置も含めて生息環境の検証を進めるなど論文に値する内容でした。ゼオライトの生息環境についても継続的に調査・研究しているところあたりも先輩からの引継ぎが成されているなどあって嬉しく思います。また、水質調査についても諦めず観測箇所を変更するなど継続して欲しいものと思います。</p> <p>4) 今後の取り組みについて 草地環境の復元を在来草本に限って進めることは大変だと感じています。外来種の除去についても今後の取り組みの蓄積により新たな方法が確立されることを期待しています。次世代の若い人たちがこの十勝川をどのようにしたいのかを提案して頂き新しいアイデアを出して頂きたいと思います。 川に対する考え方も然ることながら、人の繋がりの中で持続可能方法を次の世代へ継承させていく上での人づくりが大きなポイントとなると思います。この十勝川中流部による活動を通じて次の世代へ継いでいくようなシステムになることを楽しみにしています。</p>

状況写真



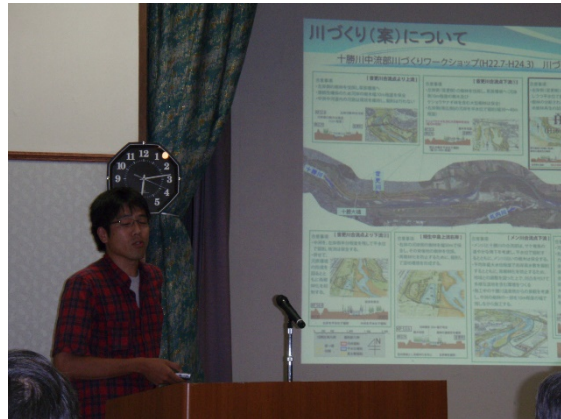
当会事務局員による司会進行



当会事務局長からの挨拶



当会議の活動主旨説明



河川管理者からの工事説明



農業高校生徒からの発表



当会議から今後の活動予定報告



参加者からの発表



参加者からの発表



顧問からの講評



河川管理者からの閉会挨拶

参加者からの他イベントの宣伝報告



第5回報告会議の参加者